

第6回全国合気道指導者研修会



中学校合気道指導法の実技研修

第6回全国合気道指導者研修会（主催＝日本武道館・合気会、後援＝スポーツ庁）は11月2日～4日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた。学校教育における合気道授業が効果的に展開されることを目的に、講師・助講師10名、合気道未経験の中学校保健体育科教員を含む参加者70名が参加した。

■1日目(11月2日)

開講式では、はじめに植芝守央合気会理事長が主催者挨拶を行い、「次期学習指導要領には、武道実施種目として合気道が明記されることになりました。今回参加の保健体育科の先生には、合気道のすばらしさを理解し、子供たちに合気道の魅力を伝えていただきたい。地域の指導者には、将来外部指導者として要請があったときに応えられるよう準備を整えていただきたいと思います。実り多き研修会となることを期待いたします」と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立ち、「合気道指導者としての資質向上、指導

力を発揮していただくことを目的とした研修会です。次年度からは、スポーツ庁の事業として、全国各地域で複数種目を実施できるモデル実践校を指定する計画があります。指導現場においては、指導者の力量が生徒の成長につながります。本研修会では日本を代表する先生方から、合気道のすばらしさを学んでいただきたいと思います」と述べた。

開講式に続いて、植芝守央特別講師による基調講演「合気道とは」が行われた。はじめに、合気道の歴史から現在に至るまでの資料映像を鑑賞し、続いて、合気道の理念と技法について解説を交えながら、基本技を中心に実技を披露し、稽古法の説明を行った。最後に「中学、高校での合気道実施校はまだまだ少ない状況ですが、合気道に対する理解を深める努力を続けていき、日本の誇りである武道、合気道の普及振興に努めていきたい」と結んだ。

次に、川城健講師による「生涯スポーツにつながる合気道の授業」の講義が行われた。主な内容は次の5点であった。

①学校体育における武道授業は、多くが未経験者で

あり、やりたくない子供もいる。

- ②「生涯スポーツ社会の実現」につながる合気道授業を意識してほしい。
- ③楽しい、おもしろい、もっとやってみたいという気持ちを育てる授業づくりを心がける。
- ④生徒が持っている力で授業に臨ませる。授業後に「楽しかったか？」と聞かない。生徒は反射的に「楽しい」と答えてしまう。感想は、授業ノートに記入させる方が効果的。
- ⑤保健体育科教員はすべての種目に精通しているわけではない。また、精通していなければ教えられないということでもない。本研修会で、合気道の特性を学び、合気道をもっとやってみたいという子供を育ててほしい。

■2日目(11月3日)

午前中は、中学校・高等学校の合気道を専門としない保健体育科教員、授業協力者として指導経験のある参加者を中心としたAグループと、各地域の社会体育指導者を中心としたBグループに分かれて講習が行われた。

Aグループの一コマ目は梅津翔助講師による「中学校合気道指導法①」が行われた。中学1年の学習内容として、はじめに「礼法」「受身」「体さばき」を指導。「受身」は座った状態から始め、片膝を立てる、中腰、最後に立った姿勢と、段階を踏んで指導することが重要と説明した。続いて、「すみお角落とし」「小手返し」「四方投げ」の指導法を行った。最後に、「合気道は日常生活とかけ離れた動作なので、繰り返すことで動きに慣れていくことが授業における指導法である。技を受けるときに、どのような動きで「受身」をとるかを全員で何度か繰り返すことにより、スムーズに技の指導に入れる」と初心者指導のポイントをあげた。

続いて、日野皓正講師による「中学校合気道指導法②」が行われた。中学2年の学習内容を日本武道協議会発行の『中学校武道必修化指導書』に沿って指導した。指導のポイントは次の4点であった。

- ①技によって動きが複雑になってくるので、指導すす前に、はじめにどういうことをしようとしているのかを説明することが大事。
- ②相手の体勢を崩すとき、真後ろではなく、斜め後ろに崩すと効果がある。技の理合につながり、生徒の意欲が高まる。
- ③倒すのではなく、相手が安全に受身がとれるようにするにはどうしたらよいか、考えさせる。

- ④「受身」のとき、手をどこにつくか、膝をどこにつけばいいか。態勢を崩しながら、バランスをとるという感覚を身につけると、楽しさにつながる。

Bグループは、午前中、尾崎^{しょう}講師の司会進行で「全国指導者研修①」が行われ、「倫理的問題の事例報告・取組」「ハラスメントの実例・対策」について、協議、発表を行った。

午後は、研修室で「全国指導者研修②」として、林典夫講師の司会・進行により、中学・高校で合気道授業を行っている参加者の授業実践報告が行われた。

「小手返しは、技をかけてる実感があるようで生徒には好評」「呼吸法は、手だけで転がす形になってしまい、指導が難しい」「生徒同士で教え合うことは効果的」「相手と呼吸を合わせることを指導するのは難しい」「嫌にならないように、あきさせないように授業にするための工夫があれば教えてほしい」など、現状、課題があげられた。

続いて、『中学校武道必修化指導書』武道編DVDを視聴後、大道場へ移動し、全員が参加して、金澤威講師による「中学校合気道指導法③」が行われた。既に基本を学習した3年生を対象とした学習内容を指導した。「技をかけるときに、力で倒そうとせず、倒れていくのを助けるという意識をもつ」「一気に力を加えるのではなく、少しずつ加える。相手の動きに合わせて」「技を受けるときは、自分から倒れるのではなく、相手の動きを吸収するという意識をもつ」など、指導のポイントをあげた。また、日野講師からは、直接身体が触れることに抵抗をもつ生徒がいる場合、タオルを使って技を掛け合う方法など、導入時の工夫が示された。

■3日目(11月4日)

魚住孝至講師による講義「宮本武蔵の五輪書に学ぶ」が行われた。立木幸敏講師が司会を務め、はじめに魚住講師の経歴を紹介し、講義に入った。

「武蔵の実像」「術理の展開」「五輪書の思想」「武蔵と日本人の『道』」の4部構成で行われた。生涯無敗といわれる武蔵が重視したことは、術の基礎を重視したことであり、実戦的な場面での工夫を重ね、実際に役立つ具体的な道理を追求してきた。「自らの道を徹底することで、普遍性に達する」という思想は現在にも通じるものである。「本研修会参加の皆様も、広い視野で物事を知り社会を知り、次の世代に何を伝えていくか、考えていただきたい」と締めくくった。

閉講式では、林典夫合気会常務理事が主催者挨拶を行い、すべての日程が終了した。